

京都大学化学研究所
共同利用・共同研究拠点

化学関連分野の深化・連携を基軸とする
先端・学際研究拠点

平成 27 年度
アンケート調査報告書



2015. 5. 11

京都大学化学研究所
化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点
平成 27 年度アンケート調査報告書

化学研究所は、平成 22 年度より標記拠点として共同利用・共同研究を推進して参りましたが、文部科学省が定める今期の拠点活動は平成 27 年度をもって終了します。現在、現体制での最終年度の拠点活動と平行して、文部科学省が設定する平成 28 年度以降の新体制においても化学関連コミュニティに資する拠点としてさらなる活動を行うべく、準備を進めています。

この準備の一環として化学関連コミュニティのメンバーからのご意見を伺う目的で、平成 27 年度初めに、本拠点平成 25 年度、26 年度共同研究課題の代表研究者の皆様に次ページに示すアンケートへの回答を御願いしたところ、多くのご意見を頂戴致しました。このご意見を 3 ページ以降にまとめます。なお、平成 22～24 年度の課題代表研究者の皆様からのご意見は、拠点自己点検報告書 (http://www.kuicr.kyoto-u.ac.jp/kaken_kyodo.html に掲載) にまとめています。化学研究所教員は、これらのご意見を参考として、平成 27 年度の現拠点および平成 28 年度以降の新体制での拠点の活動を一層活性化するよう努力を行う所存です。

平成 27 年 5 月
化学研究所
所長 時任 宣博
共同研究ステーション長 渡辺 宏

平成 27 年度京都大学化学研究所拠点 評点シート

平成 25 年度、平成 26 年度の拠点活動に関して、下記項目に評点と忌憚のない自由なご意見を記入下さい。評点は、最も高いものを 5 として、1～5 の 5 段階評価でお願い致します。なお、評価を頂く際に参考となると思われる拠点自己点検評価報告書（平成 24 年度）と外部評価報告書（平成 26 年度）は、拠点ホームページ (http://www.kuicr.kyoto-u.ac.jp/kaken_kyodo.html) に掲載されていますので、ご覧くだされば幸に存じます。

評点の欄には、○をご記入ください。

項目 1：拠点の施設・設備について

	評点				
	5	4	3	2	1
評 価					

項目 2：共同研究ステーションの運営について

	評点				
	5	4	3	2	1
評 価					

項目 3：共同研究課題の公募・採択の状況について

	評点				
	5	4	3	2	1
評 価					

項目 4：共同研究課題の成果発信の状況について

	評点				
	5	4	3	2	1
評 価					

項目 5：所外の研究者の皆様への支援の状況について

	評点				
	5	4	3	2	1
評 価					

項目 6：拠点の財務状況について

	評点				
	5	4	3	2	1
評 価					

ご意見：

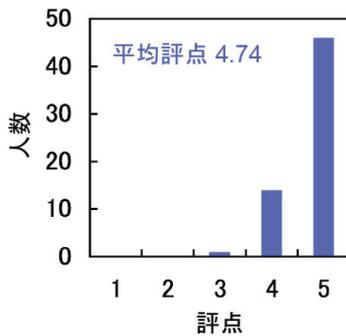
（前記項目またはそれ以外の項目について、お気づきの点があれば、忌憚のないご意見を自由にご記載下さい）

評点およびご意見のまとめ

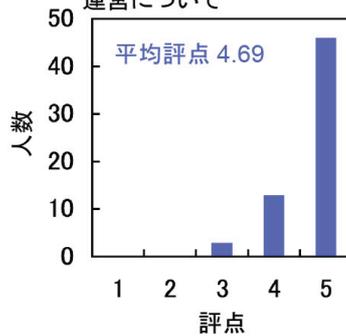
以下に、本拠点平成 25 年度、26 年度共同研究課題の代表研究者の皆様から頂いた評点とご意見をまとめます。なお、ご意見の中で、研究代表者のご氏名と所属、あるいは、化学研究所における研究分担者の氏名が特定される記述につきましては、この特定が生じないように、ご意見の内容を変えない範囲で適宜文言の変更を行っていますことをご了承下さい。

評点のまとめ

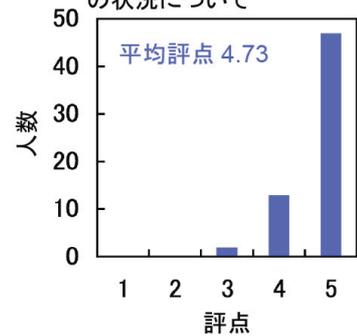
項目1: 拠点の施設・設備について



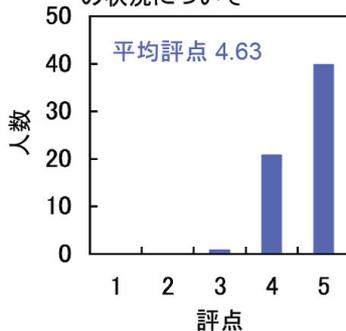
項目2: 共同研究ステーションの運営について



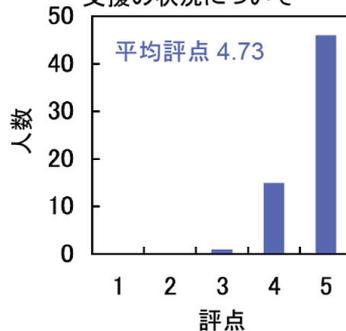
項目3: 共同研究課題の公募・採択の状況について



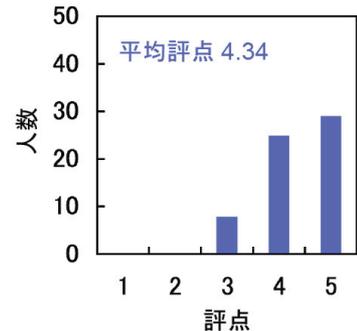
項目4: 共同研究課題の成果発信の状況について



項目5: 所外の研究者の皆様への支援の状況について



項目6: 拠点の財務状況について



ご意見のリスト

- ・ 京都大学化学研究所拠点活動の共同研究課題研究代表者として大変お世話になっております。施設・機器共同利用型におきましては、研究遂行上の必須の活動拠点と施設となっております。ICRIS シンポジウムで集う研究者との交流も、京都を拠点として化学関連コミュニティ形成に繋がっていると感じています。
僭越ながら、あえて何かを申し上げるとすれば、拠点形成事業の若手研究者育成は大変重要だと感じますが、それと並んで、私立大学からの課題採択支援も考慮に入れて頂けると、化学分野の裾野の拡大と重厚化に繋がると期待できます。
来年度以降の新体制での拠点活動におかれましても益々の発展をお祈り致しますと共に、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。
- ・ 良くやられていると思います。とくにありません。
- ・ 優れた研究施設と人材をさらに有効に使えるように、今後もネットワーク・ハブ構築を進めて頂きたいと思います。
- ・ 施設や人材の豊富さについては群を抜いていることは痛感している。地方大学で独立した研究室を運営していく上で、研究大学の施設を利用し、京大の研究者の方と共同研究できるこ

とは、私自身にとって刺激的であるだけではなく、本学の学生たちにとっても（旅費がでるため）非常に刺激的なようで、京大での共同研究前後で顔つきが変わるのが分かるくらいである。

研究所として、外部に開かれていることは非常に重要であると思われる。また、私のグループがおもしろい論文を執筆できたのは非常に収穫であった。徐々に私自身若手からは離れつつあるが、若手にとってはこのようないいシステムが有るのは非常に助けになると思う。財務状況が苦しいのは重々承知であるが、附置研が生き残っていくためには、研究を盛り上げるのと同時に、若手研究者、地方・私立大学の研究者に開かれた形を追求するというのも一つのあり方だと思う。

成果発信については、本学においても頭を悩ませているところである。紙媒体を残すことの意義について、否定はしないが、もっとネットなどを用いた外部発信の方法を考えても良いと思う。特に、化研のようにかなり広い分野が集まっている研究所では、宣伝したいことが発散し、何を言っているのかわからないことになる。ネット万能、とは思わないものの、本件についても 100G 以上のファイルではなく、もう少し見やすい形、わかりやすい形で発信してもらってもいい。

化研には個人的に愛着もあるし、やはりこれからなかなか大変な時代の中で生き残ってほしいと思っている。外からご協力できることがあれば、必要とあれば、助けになりたいと思っているし、本学と Win-win の関係を築けるような方法を新たに模索する必要があると考えている。

- ・ 私のような研究室を立ち上げ中の若手研究者にとって大変ありがたい制度です。アイデアはあったものの、実験装置の制約で行えなかった研究を実施させていただくことができ感謝しています。最先端設備を開放するだけの制度とは異なり、共同研究として進めさせていただける制度であるため、実験アイデアの具体化やその実施方法の検討・検証、そして論文執筆までを効率的に進めることができると感じました。今後ともぜひ拠点活動を続けていただきたく思います。

希望としましては、拠点研究実施で訪問期間中だけでかまいませんので、夜間や休日にも入構させていただけるようになるとありがたいです。とくに昨年度（1月）の実施期間中には、メインの建物で水道のトラブルがあり、夜間のトイレや水の使用で苦勞しました。よろしくお願ひします。

- ・ 意見は、特にございません

- ・ ご支援ありがとうございます。

化研の充実した設備にアクセスできるすばらしい事業だと思います。

上記、2点だけ4と採点しました。理由は下記になります。

項目5、6について

正直なところ、現状の倍程度の予算配分（100万円@年以上程度）があれば、もう少し有効に利用できるように思います。

- ・ 拠点研究の成果において、論文発表をおこなっている共同研究グループと、おこなっていないグループの大きく2つに大別されるように見受けられます。特に、特定のグループが論文発表をおこなっているように感じられます。

共同研究を実施しているという事実が大事なのか、共同研究成果を出すという目的を達することが大事なのか、どちらが優先なのか、少し分かりにくいです。

また、萌芽的課題から、発展的課題に移行する際には、論文発表を条件にするなどの、何らかの定量的な指標を設けた方が良いと思われます。

- ・ 本共同研究制度は京大化研が所有する様々な実験施設を利用するというハードウェア的な面のみならず、採択されたテーマに関する議論が深まるなどの人的な面についても大きな意義を感じています。また、消耗品について予算的な援助をいただけることも、研究テーマ遂行

に際して大きな励みです。ぜひ、今後とも発展的に続けていただければと思います。

しいて問題点を上げるとするならば、宇治キャンパス周辺には手頃な宿泊施設がないため、京都駅周辺に宿泊しています。ゲストハウスが近隣にあれば時間を有効に使うことができるかと思います(項目1に含まれますが)。財政的な問題もあり、難しいとは思いますが、ご検討いただければ幸いです。

- 化学を軸とした様々な協力体制が生まれうるこのような取り組みを更に活発に続けて頂けると有り難いと思います。
- 化学研究所共同利用・共同研究拠点の平成26年度課題を採択していただき有難うございました。
- いつもお世話になっております。特に意見はございません。今後ともよろしく御願い申し上げます。
- 研究にご支援いただき、誠に感謝しています。研究期間を1年ではなく、複数年にすることは難しいのでしょうか？
- 大変お世話になっています。これからもどうぞよろしく御願いいたします。
- 化研には、高度な実験機器が設置されたおり、このような機器を利用したの化研研究者との共同研究は、地方大学の研究者にとって第一級の成果を上げられチャンスである。
また化研の研究者にとっても研究の幅や経験を広げることのできるメリットもあると思われる。今後とも、化研が共同研究拠点として益々充実されることを望む。特に事前の準備研究に必要な研究経費の拡充を望む。
- たいへん意味ある拠点活動であり、今後も継続されることを望む。
- 拠点研究による研究助成は、私にとって大変有意義なものです。最大の理由は、興味の対象が同じでありながら、専門分野の異なる貴研究所教員と共同研究できる体制を支援していただける点にあります。研究協力者(大学院生)とともに化学研究所を訪ね、研究について討論したり、自分だけでは不可能な実験をしたりする機会が得られ、電話やメールのやりとりだけでは得られない情報が集積できています。あらためて研究助成いただいたことにお礼申し上げます。
平成26年度の共同研究が今のところ論文業績に結びついていない点は心残りですが(この点で前ページ項目4の評点は3となっています)、平成27年度の拠点研究では、前年度の共同研究をもとに成果が得られそうです。
質問項目に関しましては、項目6の意味がよく理解できません。化学研究所の財務状況はわかりかねますので、私の助成金に関しての財務状況として記入いたしました。主たる使途は旅費であるため、助成していただいた金額で十分目的を達成できたと思います。また、どの項目に関するのかわかりませんが、出張費の支払いが大変迅速であることに驚き、感謝申し上げる次第です。
- 非常に有意義に研究を進めることができ、感謝しております。今後も同拠点活動を継続していただくことを願っております。
- 研究拠点としてのアクティビティは非常に高く、共同研究を高いレベルで実施することができた。これは、設備や予算の問題よりも、化学研究所員の研究遂行能力の高さに負うところが大きい。雑務を減らし、研究者が研究に費やせる時間をできるだけ増やすことが、研究拠点としての活力を維持するために最も重要であろう。

- 本拠点活動は、化学に関連する基盤研究から材料や生命の研究にまで渡る広範な分野を包括する化学研究所ならではの、特色のある極めて優れた拠点活動であると考えている。研究課題に採択していただいたことにより、研究が飛躍的に進展したのみならず、ホスト研究者との連携も深まり、化学関連分野におけるコミュニティ形成促進効果を実感できた。このように、本拠点は効果の高い重要なものであるため、今後も国をはじめ様々なところからの支援により更に発展されることを強く期待する。
- 特にありません。
- 共同研究課題では大変お世話になり、どうもありがとうございました。お陰をもちまして、消耗品や旅費として使用することができ、研究遂行上、大変助かりました。また、2014年3月のICRIS'14にはお招きいただき、こちらもどうもありがとうございました。おかげさまで、非常に有意義な時間を過ごすことができました。
- 宿泊施設が所内にあると大変有り難く存じます。運営上はご苦勞もあるかと存じますが、昨今、多くの大学や共同利用施設が所内に宿泊施設を持っております。現在は、近隣のビジネスホテルに宿泊しておりますが、所内にあれば、研究時間がより有効に利用できますので。研究に伺うさいの手続きや、実際の研究については、大変丁寧にかつ迅速に対応いただきまして、有り難く思っております。

分野が多岐に渡りますため、なかなか全体での会合は難しいかと存じますが、また、皆様ご多忙の中で大変とは存じますが、たとえば、近い分野で、課題採択者と所内で対応いただいております研究者の方々のミニシンポジウムなどがあると、若い研究者や院生にとっては、視野も広がりよい勉強の機会になるのではと思いました。
- フレンドリーな教官が多くて共同研究が行いやすい
- 共同研究で利用させていただいている装置は、高度な性能を維持しつつ高い稼働率で運転されており、他の研究施設のロールモデル的な存在になっている。

化学研究所の共同研究者には、本共同研究に対し多大な支援をいただいております。感謝申し上げます。成果の発信に努めていきたい。
- 共同研究にご支援下さりましてありがとうございました。益々の発展をお祈りしております。
- いつもご支援いただきまして誠にありがとうございます。誠に恐縮ですが、意見を述べさせていただきます。

項目1: キャンパス内やキャンパス周辺に、短期・中期滞在のための宿泊施設等があれば、共同研究の推進につながるかと思えます。特に、国際枠の共同研究を推進するために不可欠かと考えられます。

項目5: 近年、国立大学の運営校費金が減少し続ける状況において、共同研究の経費等々をご支援いただくことで、共同研究が継続・推進できております。
- 共同研究により多角的視点での研究が相乗的に展開できるようになり大変有意義であると感じています。今後も拠点として更なる発展を期待しております。
- 本共同研究課題は、共同研究をより推進する機会を与えてくださいました。ありがとうございました。
- 本研究拠点における共同研究は、研究分野、研究機関およびその所在地が多岐にわたる。これは、化研を中心とした日本全体の化学関連分野における研究の底上げを図ることにつながっており、このことは研究成果の発信状況に表れていると言える。特に、様々な事情から研究を推進する上で十分な環境におかれていない研究者が、充実した設備を有する化研の教員

と共同研究を進めることによって、研究の芽を大きく伸ばすことが可能になることが期待される。実際私もこの拠点研究によって、芽が出かけた文字通り萌芽的な新規研究テーマを確実に発展させることができた。今後の研究の方向性をはっきりと見出し、計画計画をたてることができたのは、間違いなく拠点研究を利用した共同研究のおかげである。特に多額の研究経費を必要としない萌芽的な研究課題を、この仕組みの有効な利活用により発展させることができる可能性が高いと感じる。

この拠点研究事業が、長い目で見た日本の化学研究の発展につながることを期待するとともに、現在関わっている私も一層の努力をしたいと考えている。

- ・ 私のような学際的な研究を専門にしている研究者にとって共同研究は必須であり、特に専門性の高い化学研究所の研究者との共同研究は重要です。その化学研究所よりお墨付きの研究費があることは励みになります。私の大学では研究費の使用に独特の制限があるので、化学研究所で使用できる研究費は貴重です。
- ・ このたび化学研究所の共同利用・共同研究に採択頂きましたことに心から感謝申し上げます。特に、共同研究に際しては化学研究所の共同研究者から多くのアイデアをいただいたお陰で、これまで全く不明であったダイナミクスに対する考察を行うことができ、様々な提案をいただくことができました。これらの知見はいずれも貴研究所の世界トップレベルの研究者と共同研究をさせていただけたことによるものであります。こうした活動が今後も継続され、新しい成果が生み出されていくことを心から願っています。
- ・ 今回の共同研究においては、化学研究所の化合物ライブラリーを使わせて頂きましたが、拠点の施設・備品については使用することはありませんでした。本共同研究で大きな成果が挙がり、大変満足しております。
- ・ 特にございません。
- ・ 採択内容は多岐にわたっており、多くの成果が上がっていることがうかがえる。京都大学化学研究所主要メンバーからなる推進班に加えて、オリジナルでかつバラエティーに富んだ種々のテーマを組み合わせ、外部研究者との共同研究を組織している。実験・理論・統計などの従来のカテゴリーにとらわれず、多くの研究者からなる開かれた研究組織は高く評価できる。研究施設・設備等についても、プロジェクトの遂行に適切な設備が設置され、また利用状況も良好である。

以上、化学研究分野を今後の日本がリードしていく上で、本拠点が担った役割は大きい。また、国内外外部研究者との共同研究のスキームも本拠点によって組織的に整備されつつある。本拠点によって生まれた新たな芽が今後大きく発展することを期待する。
- ・ 所外の研究者に対し、研究費をはじめ積極的なご支援・ご指導を頂き、大変感謝しております。課題解決に向けた共同研究拠点として十分に役割を果たしており、今後とも継続して頂きたいです。
- ・ 附置研究所の財源確保が難しくなっているのは厳しい状況ですが、物質科学という大きな観点から、様々な分野の研究者を集めて融合的な研究を生み出せる研究拠点として発展し続けることを期待します。
- ・ 課題を採択していただきましてありがとうございます。非常に有意義な共同研究を行わせていただいております。今期の拠点活動は平成27年度をもって終了とのことですが、新体制でも同様な活動を継続されることを希望いたします。

旅費に関しまして、報告書の作成は厭いませんので、共同研究者が参加しない学会でも成果発表であれば使用できるとさらに使いやすいと思います。ただ、現状でも化学研究所の研究者への負担がかなりあると思いますので、あくまで負担が増えない方向で変えることがで

きるようであれば、ではありません。

また、私の場合はディスカッションが主であったことと日帰りできる距離であることから問題にはなりませんでしたが、遠方から、あるいは長時間の実験をする研究者・学生のために宇治キャンパス内かすぐ近くに宿泊施設があるのが良いと思います。化学研究所ではなく、大学本部が対応することではありますが、共同研究者からの意見として上げていただければと思います。

- ・ 共同研究による設備利用で可能となった測定により、研究が大いに進展しています。本拠点事業にたいへん感謝しています。共同研究滞在時に利用可能な安価な宿泊施設が近辺にあればよいと感じています。
- ・ 共同研究拠点として、多数の研究機関との連携推進による優れた研究成果をあげており、化学関連分野の深化や若手の育成に大きく貢献していることが強く考えられます。今後も世界的な研究拠点として、学際領域での更なる発展を望みます。
- ・ 他の研究費・運営費が限られている中、本共同研究費は自由度が高くとても重要で貴重な予算でした。
- ・ 以前より国際会議にてご一緒してきた化学研究所の研究者が同研究所で数世代にわたって築いてきた不均質構造の系統的研究は、同会議においても高く評価されており、同会議編集の著作物にも大きな寄与があります。この度は階層的構造のキャラクター化を行う共同研究課題の提案に対して、2年間にわたり化学研究所の共同研究課題として採択をいただき、大変感謝しております。おかげさまで個々の学問的にユニークな点を相補的に組み合わせることができ、この分野で従来指摘されてきた観測問題に起因する解析の曖昧さや課題に対して、より正確な解釈や対処を可能にするアプローチが見えてきました。今後さらにこの分野での発展的な研究につなげていくことができるものと期待しております。

研究の遂行にあたって、このような学外機関との共同研究によって化学研究所の公的機関としての役割は改めて大きく強調されていると感じますし、その運用自体が外部からの公平性の評価を常に受けている状況を生み出しているとも思います。またその際に要求される前提としての学問的内容の水準の高さや普遍性については、化学研究所所員だけでなく共同研究者にも相当の責任がかかるのも当然と認識しております。ぜひ今後ともこのような共同研究に対する支援の継続と、その運用のさらなる拡張に期待しております。
- ・ 設備については現在までに利用したことがありませんが、今年度以降に是非使用したい装置がありますので、積極的に活用していきたいと考えています。
- ・ 京都大学化学研究所が実施されました化学関連分野の深化・連携を基軸とする共同研究は、最先端の測定（分析）装置を持たない地方大学で研究するものにとりまして大変助かりました。また、大学院生も実験結果の解釈などの議論に参加できることは、将来の人材育成の観点からもとても大事なことと思われまます。
- ・ 京都大学化学研究所の高分解能質量分析装置を用いての測定により、大きな研究成果を得ることができました。今後も、こうした拠点活動が活発に行われることを強く希望しております。
- ・ いつもお世話になっております。費用や装置の援助によりスムーズに共同研究を進めることができ、大変感謝しています。今後とも宜しくお願い致します。